

仕分けたマーク、3年弱で300万点超

「イールド桜木町」で障がい者がボランティア活動

横浜市中区にある事業所「イールド桜木町」は、企業に対して「障がい者雇用補完サービス」を提供しており、ベルマークの「仕分けボランティア」も活動内容に取り入れています。約3年前から始め、今までに仕分けた点数は300万点を超えました。

事業所では、初めに就職希望者への研修を2年間行います。研修を終えると、合同会社ガイイールド(本社・横浜市中区)と契約を結んでいる企業の社会貢献・CSR部門に正社員として採用・配属されます。でも勤務地は引き続きイールド桜木町のままで、社会貢献活動を続けることが日々の業務になります。つまり、就職後も慣れ親しんだ環境で働ける、というわけです。

社会貢献活動の一つがベルマークの仕分けボランティアです。事務所発足当初、活動は人手不足の農家を支援する「農作業」だけでした。しかし、雨の日はどうするかという課題が生まれたことから、職員の刈谷鉄平さんが室内で出来るボランティアをネットで検索し、ベルマー



クに辿り着きました。

初めて仕分けをしたのが2018年8月。作業手順の効率化や、小さなマークに見合う入れ物探しなどを手探りで進めました。回数を重ねるにつれ、くじ引きで担当するベルマーク番号を決めたり、二重チェックを取り入れたりするなど独自の工夫が出来てきました。現在は、天候に関係なく毎日仕分けに取り組んでいます。

事業所に伺った6月25日は、7人が作業をしていました。「毎日マークに触れていたら、何番がどの会社か覚えちゃいました」と笑うのはS.W.さん。スーパーに行ったとき、ご両親との会話のネタとなっているそうです。

ガイイールドの端野健一代表は、障がい者の皆さんと仕分け作業の相性について「今日の何時までにこれを仕上げるという『納期』が厳しくないことが大きい」と分析。「今後も、障がいのある人の自立支援はもちろん、ベルマーク仕分けや農作業といった活動も継続し、社会に貢献していきたい」と話してくれました。



④試行錯誤した結果、小さな紙コップを使うことになった
⑤この日仕分け作業をしてくれた皆さんと、端野健一代表(後列右端)、刈谷鉄平さん(後列左端)

災害の話、もっと身近に感じて

山梨・県立盲学校で防災科学教室

ベルマーク財団の教育応援隊の1つ、防災科学教室が7月14日、山梨県甲府市の山梨県立盲学校の体育館でありました。国立研究開発法人・防災科学技術研究所(防災科研)との共催で4年前から実施しており、今年度では初めての開催です。小学部から高等部までの生徒と先生、計約40人が参加しました。

山梨県は前日、激しい夕立と雷に見舞われたそうです。成田健校長は「昨日は雨と雷がすごかったですね。家にいる時や外にいる時、身近で災害が起きるかも知れない。どういうしくみで起きるのか学びましょう」と話しました。

この日は2部制。前半は防災科研の研究者でDr. ナダレンジャーこと納口恭明さんと、ナダレンコこと樽優子さんが講師です。金とピンクのかつらにメガネといういつもの仮装姿の二人は、お馴染



みの皿回しからスタートしてみんなの心をつかみます。

実験の最初は突風マシン。勢いよく風が吹き出します。ペットボトルで作ったミニサイズのマシンを子どもたちに渡したナダレンジャーは「自分の顔に向けてやってみて……これ小さいから面白いけど、体育館の大きさだったらどうかな? みんなふっとんで死んじゃう。巨大化すると災害って怖いんだよ」。



さらに、建物の高さによって地震のときの揺れ方が違うこと、実験器具「エッキー」を使って地盤が液状化することなどを学びました。「サイエンスを勉強する時は、楽しく」とナダレンジャー。

休憩をはさんだ後半では、講師が花崎哲司さんにバトンタッチ。防災科研の客員研究員で元香川県立盲学校の先生です。「みなさんは見えない、見えにくいけれど、自分の得意なことがあるからね」と話します。

例えば雨の夜は移動が難しいけれど「みなさんは音や匂いで方向が感じ取れるかも」と花崎先生。

お話の後は、みんなで簡易プールの前に移動。まずは先生オリジナルの「ねこちゃんハウス」を使って、水の力で扉が開きにくくなることを実感します。増水にはまった車から脱出するのが大変なのと同じです。

続いて、ただの水プールと、泥や石ころが入っているプールに順番に入り、土砂があるととても歩きにくいことを体験します。生徒の一人は「石があってすべりそうで怖かった」。

教室の最後に、子どもたちの代表2人が感想を述べました。「水の中は歩きづらかった。勉強するのは楽しかったけど、本当に起きたら怖いと思う。今日のことを生かしたいです」

北海道・東北・関東の3校にマーク寄贈

キリンビバレッジとツルハドラッグ、半分は財団にも寄贈

ドラッグストアの全国チェーン、ツルハドラッグ(本社・札幌市)と協賛会社のキリンビバレッジ(ベルマーク番号54)は昨年、北海道・東北・関東の3地区で共同キャンペーンを実施し、11万5816万点のベルマークを集めました。このうち半分はベルマーク財団に寄贈、残り半分は北海道、東北、関東の各地区の小学校に寄贈されました。

関東地区の贈呈先は千葉市花見川区の市立幕張東小学校。6月23日、同校で贈呈式があり、ベルマーク1万5928点が贈られました。工藤正弘校長は「ご支援いただき、本当にうれしいです」とお礼を述べました。

このキャンペーンは地域貢献や復興支援を目的に昨年8～10月、北海道・東北・関東のツルハドラッグ全店舗で実施されました。キリンビバレッジのベルマーク6

点を送ると、抽選で商品券などが当たるといものです。

両社の共同キャンペーンはこれが2度目。今回の応募総数は1万7486通で、寄贈先は応募数が最も多かった店舗の近隣校を選んだそうです。ツルハドラッグの小田哲・関東店舗運営本部第二店舗運営部長は「これほど応募が多いキャンペーンは他になく、驚きました。地域の子どものために店舗を利用して、うれしく思います」、キリンビバレッジの光富常郎・広域流通営業部長は「少しでも教育の場に役立つよう、これからもベルマークの取り組みを続けていきたい」と語りました。

北海道では札幌市西区の市立八軒小学校、東北では岩手県北上市の市立黒沢尻東小学校に、それぞれベルマークが贈られました。ツルハドラッグにはベルマーク財団から感謝状を贈りました。



④幕張東小でのベルマーク贈呈式 ⑤⑥幕張東小 ⑦⑧学校のキャラクター「キャラミー」は地元名産のニンジンがモチーフ